

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 進路を実現させるための学習指導の充実

- (1) 「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 校内における研究授業や授業アンケートの結果を活用するとともに、アクティブ・ラーニングの先進校等を研究し、本校の実践に反映させる。
 - イ 校内の ICT 環境の整備に伴い、ICT を積極的に活用した授業改善に向けて研究を進める。
 - ウ 65 分授業や少人数指導の効果を検証し、指導方法をよりよいものに改善する。
 - エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付けを明確にし、思考力、判断力、表現力を効果的に育成する。

※ 授業アンケートにおける満足度を 80%以上に着させる。

※ 畷高アンケートにおける 65 分授業への生徒の満足度を平成 27 年度までに 80%以上 (H26 75% H25 70%) に引き上げる。
- (2) 生徒の進路実現につながるよう、補習・講習及び個別指導の充実を図るとともに、自学自習の習慣を身に付けさせる。
 - ア 学習合宿などの実施や自習室の利用を通じて、生徒の自学自習力を伸ばす。
 - イ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒のニーズに対応した講習・補習を実施する。

※ 畷高アンケートにおける自習室の利用者を 60%以上にする。(H26 50%)

※ 畷高アンケートにおける「先生は質問によく答えてくれる」に対する生徒の肯定的評価を限りなく 100%に近づける。(H26 97%)

2 社会に貢献する人間力あふれる人材育成

- (1) グローバル社会のリーダーとしてふさわしい人材となるよう、基本的な生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成を図る。
 - ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化を図る。
 - イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底する。

※ 複数の部活動における近畿大会への出場を継続させるとともに、全国大会への出場を実現する。(H25, H26 とともに 5 部が近畿大会出場)

※ 平成 27 年度までに年間遅刻回数を 1,000 未満に減らす。(H26 1,045 名 H25 1,486 名 H24 1,807 名)
- (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ア 1 年次 11 月の「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、1 年次 2 月の「英語暗誦大会(如月杯)」、2 年次の課題研究成果発表会、SSH 合同発表会など発表の機会を充実させるとともにさらなるレベルアップをめざす。

※ 校外での各種コンクールへの応募数及び入賞数を毎年 10 名以上をめざす。
- (3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
 - ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムとの交流を充実させるとともに、大学や関係機関の協力を得ながら、国際交流キャンプやテレビ会議システムなどを活用した交流にも取り組む。
 - イ 国際共通言語としての英語が使えるよう SET を導入し、TOEIC や TOEFL の受験を奨励し、実用英語力の向上を図る。

※平成 28 年度までに TOEFLiBT で 60 点以上が 40 名、80 点以上を 10 名以上出す。
- (4) 地域に信頼される学校づくりを推進するため、地域への貢献活動を充実させる。
 - ア 四條畷市の姉妹都市であるドイツのメアブッシュ市との交流を進め、市内の小中学校との交流を進める。
 - イ 本校の SSH 事業の成果を地域に還元するとともに、部活動や学校行事等を通して地域に貢献する機会を増やす。

※四條畷市内中学校からの入学者を平成 28 年度までに定員の 10%以上 (H27 5.8% H26 6.7% H25 4.4%) に増やす。

3 学校組織運営の効率化

- (1) 校長がリーダーシップを発揮し、教職員全体がチームとして学校運営への積極的な参画意識の向上を図る。
 - ア ICT 推進 PT が中心となって、統合 ICT ネットワーク、校務処理システムの活用を促進し、学校全体の校務の効率化を図る。
 - イ 畷プロジェクトチームが SSH 推進 PT、国際交流 PT、広報 PT にそれぞれ改編された趣旨を生かし、機能的かつ効率的な業務運営をめざす。
 - ウ 職員会議をはじめ各種会議が、情報共有や意見交換の場として機能し、教職員の意見が学校運営に反映できるよう活性化させる。

※教職員向け畷高アンケートにおいて「校長が学校運営にリーダーシップを発揮している」に対する肯定的意見を 80%以上にする。(H26 74%)

※教職員向け畷高アンケートにおいて「教職員の学校運営への意見反映」に対する肯定的意見を 70%以上にする。(H26 41%)
 - (2) 平成 28 年度から改善される入学者選抜の実施に向けて、効果的な広報活動を組織的に推進する。
 - ア アドミッションポリシー(求める生徒像)を教職員で共有するとともに積極的に発信し、中学校、受験生及び保護者に対して周知を図る。

※ 年間 5 回実施している学校説明会への参加者 2,000 名以上を維持する (H26 2,482 名 H25 は 2,454 名)。
 - (3) 一人一人の進路希望に応じた進路を実現させるため、進路指導体制を充実させる。
 - ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」と生徒の進路実現に向けた進路指導を徹底する。

※ 第一志望現役合格率 50%以上をめざす。また、京阪神 3 大学への合格者総数 80 名以上 (H27 74 名 H26 84 名 H25 65 名) を維持する。
 - イ 飯盛セミナーや大学研究室訪問などを通じて、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を増やす。
 - ウ 進路指導部の分析データを教職員全員で共有するため、教員対象の「スキルアップ研修」を定期的実施し、全教員の進路指導力を向上させる。
- ※外部講師による「スキルアップ研修」への参加率 80%以上とする。
- (4) 安全で安心して学校生活を送れるように環境を整備する。
 - ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の生徒相談体制をより一層充実し、支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるようにする。
 - イ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
 - ウ 障がいのある生徒が安全に安心して高校生活を送れるよう、必要な支援を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 学校生活全般に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する満足度は、生徒 88%(昨年 93%)と昨年比 5%減である。88%の内訳は「満足」47%(昨年 60%)、「やや満足」41%(昨年 33%)と、強い肯定が減少している。この一つの原因が、最近 2～3 年の本校への志望動機の変化「自分の成績レベルにあったから」の割合の増加にあるのかもしれない。 ・「畷高は楽しいですか」に対しては、依然高い肯定的評価を維持している。93%(昨年 95%) ・95%の保護者が授業参観や学校行事で学校に来ており、保護者の学校への高い関心を読み取れる。(昨年 94%) <p>(2) 授業に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教え方に工夫をしている教員が多い」について、昨年と同程度の 84%の生徒が肯定的に答えている。(昨年 86%) ・「畷高の授業で必要な力がつく」と感じている生徒が 91%(昨年 95%)で高いが昨年よりは若干減少している。 ・「先生は質問によく答えてくれる」は非常に高い肯定的評価を維持している。98%(昨年 97%)本校の教員集団の授業中、放課後を問わない丁寧な指導が反映されていると思われる。 <p>(3) 新しい質問の解答等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日々の生活において、忙しいと感じていますか」に対して、94%の生徒が感じており、「忙しさの原因は何だと思いますか」に対して、53%が予習・復習、31%が部活動と答えている。 ・「平均して、1日に何時間程度、携帯電話やスマートフォンを操作していますか」では、2時間以上の者が、1年で 59%、2年で 63%にのぼる。 	<p>第 1 回 (5 月 26 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT 機器の活用についてその後はどうなっているのか。 →多くの教員が ICT 機器を利用するようになり、それに伴うプロジェクターの設置要望が出ている。現 3 年全教室にはプロジェクターが設置されているが、今年度中に 2 年生の全クラスに設置予定である。 ○アクティブ・ラーニングの今後の具体的な取組についてはどうか。 →昨年は講師を招いての講演だったが、今年は外部講師に本校教員の授業を見てもらって指導助言をいただく形の研修を実施する。併せて、先進的な取り組みをしている大学・高校への視察も予定している。 ○英語の専門家が本年配置となったと聞いたが、どのような授業をしているのか。 →スーパーイングリッシュティーチャー (SET) が本校を含め府立高校 10 校に配置された。「聞く・話す・読む・書く」といった 4 技能をバランスよく身に付けさせるため、英語のみでアクティブ・ラーニングの手法による生徒参加型授業を実践している。生徒の評価も高く、最初中が功との違いに戸惑っていた生徒も少しずつ慣れてきている。 ○全盲生徒が入学して 2 か月が経った様子はどうか。 →生徒自身が意欲的にどの教科も取り組んでおり、体育もほぼ同じメニューをこなしている。教科担当者が工夫を凝らして授業を行っているが、記号や図形を含む理系科目で苦労しているところもある。また週 2 回点訳支援員の方に、授業プリント等の点訳・墨訳をお願いしている。 <p>第 2 回 (11 月 18 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アクティブ・ラーニング研修について、研究授業の様子をビデオで見た後、委員からその授業のスタイルは普段から実践しているものかとの質問 →研究授業を行った 4 名の教員は普段からこのスタイルを取り入れており、他の教員が可能な限り授業を見学し、後に講師より指導助言を受け、その内容を教員全体で共有した。 ・委員からは、この機会を利用し、教科内で指導方法についての話し合いが進めば、非常に良い取組になるとの評価を得た。 ○国際交流事業へ参加できなかった生徒への対応についてはどうか。 →前年の参加生徒が今年度参加する生徒へアドバイスすることや、飯盛セミナーなどの機会に、参加した生徒が海外研修を報告することはあったが、十分に還元できていない。また参加者の重複も課題として挙げた。 ○SSH 活動について、近隣小学校へのお出前授業では何を行うのか。 →高校レベルで学習する電磁誘導の内容を、小学校の教科書を事前に入手し、小学 5 年生が学習する予定の単元 (磁石のはたらき) の内容に合わせて、子どもたちにもわかりやすい実験の授業を 12 月に行う予定。 <p>第 3 回 (2 月 24 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎畷高アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生の「入学して満足度」だけをみると下がってきているのはなぜか。 →「強い肯定」の割合が減少し、「やや満足」という肯定が増加した。1 年生の生徒が「行きたい学校」より、「入れる学校」を選ぶようになったと推測。 ・保護者は全体的に高い評価だが、「授業がわかりやすく充実している」の強い肯定が少なくなっているのはなぜか。 →例年、保護者による評価は「強い肯定」が低く、授業への不満がある生徒が保護者に話をしているのだろう。結果として「強い肯定」が出ていないことを我々も反省。生徒による授業評価においては、満点 4 点のうち平均 3.25 で 9 割以上の教員が 3 以上なので、かなり高い評価である。 ・環境に対する意識が低い。来校時にゴミが落ちていたことはないが違和感があるが。 →学校に持ち込む食べ物のゴミが多い。ゴミを処理するのにお金がかかるなど意識を高める。誰もいない教室の照明がつけたままになっていることが多々ある。 ・SET(スーパーイングリッシュティーチャー)による校内での変化はどうか。→授業以外のことで積極的に動いてくれており、一緒に仕事がしやすい。 TOEFL のエクストラ講座を開講し、コンピューター関連の仕事も得意。 <ul style="list-style-type: none"> ・SSH ドイツ先進的エネルギー研修で、何回くらい事前指導を行っているか。 →3 回実施。1 年生探究チャレンジ I でエネルギーをテーマとし、世界、日本のエネルギーについて全員学ぶ。2 年生でドイツの様子を学ぶ。 ・部活動の悩みはあるか。 →勉強との両立に悩む。両立できている生徒は 18 時に活動が終わり、20 時まで自習室で宿題をやる。辞める理由は勉強と両立できないから。1 年生の辞める時期は 1 学期中間、夏休みの後、2 学期末。2 年生になったら自分でやり方がわかってくる。 ・生徒が忙しいのは健全なことではないか。 →本を読まない生徒もいる。家庭学習時間が少ないことから、スマホで LINE などに忙しく感じているのかもしれない。 ・スマートフォンの指導はどうしているのか。 →指導はする。授業中に使用しないこと以外の規制はない。3 学期の全校集会で「スマホの関わり方を考えよう」と呼びかけた。掲示物を写真に撮るといった使い方もある。電源を切らない限り、勉強中に LINE の着信音が鳴り続けるため集中できない。 <p>◎SC について。</p>

	<p>・中学校ではSCに常駐してほしいくらいだが、高校ではどうか。 →本当に必要な人はSCへすぐに相談する。SCに相談する前に、2人の養護教諭が保健室で身体的症状から話を聞いていくと、心の問題に行きつく。府からは年間10回、1回5時間の派遣。学校独自に同窓会からの援助でもう一人派遣してもらっている。</p> <p>・適応指導教室に通っている生徒の成績や進路はどうなっているのか。 →内規を定める必要があり、一律に決めることが難しい。今回の例より考えていく。</p> <p>◎その他</p> <p>・視覚障がいのある生徒はどんなふうにご経過しているのか。 →夏ぐらいいまで母と登校。今は独りで登校。短縮マラソンで伴走者と完走。ブレイルノートというデータ化できる機械を使う。これからは進路も考えていく。教科書や定期テストはボランティア団体に点訳してもらっている。</p> <p>・SGHやSSHなど業務が増える一方だが、組織運営について教員のストレスマネジメントを校務検討小委員会（仮称）で検討してほしい。</p> <p>・18歳の選挙権のことだが、日本独自の公民権について小・中・高の積み重ねで発達段階に合わせて、学ぶべきではないか。 →生徒にとって政治は遠い。当事者としての意識を持たせる、リテラシーをもてるよう、大阪府のガイドラインをもとに選挙権について教えていきたい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路を実現させるための学習指導の充実	(1)「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善への取組み ア アクティブ・ラーニングの実践 イ ICTを活用した授業改善 ウ 65分授業や少人数指導の効果検証と指導方法の改善 エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付け	(1) ア アクティブ・ラーニングに関する外部講師を招いての研修会及び授業の実践 イ タブレット型PC及び電子黒板を使った授業の導入 ウ 65分授業及び少人数授業における指導方法の研究を行い、授業改善につなげる。 エ 生徒の課題研究テーマに応じた教員の指導体制の充実を図る。	(1) ア 授業アンケートにおける授業に対する満足度の平均が85%以上(H26 85%)。 イ 教員全員がICT機器を使った授業を1回以上実施。 ウ 暇高アンケートでの65分授業に対する生徒満足度が80%以上(H26 75%)。 エ 課題研究の校外での発表会で10本以上(H26 12本)。	(1) ア 京都大学溝上教授によるアクティブ・ラーニング研修を実施 研究授業(4クラス)・研究協議を行い、指導助言を全教員で共有した。授業満足度は暇高アンケート「授業で必要な力がつく」(91%) (◎) イ ICT利用の授業は確実に増えている。暇高アンケート44%の教員が積極的に活用と回答 (◎) ウ 65分授業の満足度は2年生が76%(昨年76%)で変化はないが、1年生が61%(昨年74%)と大きく低下したことは、先述した本校への志望動機との相関も考えられる。(△) エ 大阪でのSSH全国大会にてプレゼン1本、ポスター発表1本 大阪サイエンスデイにてプレゼン2本、ポスター発表8本、GLHS合同発表会発表1本、他校へのSSH生徒発表会参加2本 計15本。(◎)
	(2)生徒の進路実現につながる補習・講習及び自習環境の充実 ア 自学自習環境の整備による自学自習力の育成 イ 大学入試及び生徒のニーズに対応した講習・補習の実施	(2) ア 1年生全員を対象に学習合宿(7月淡路島)を実施するとともに、自習室の利用率を向上させる。 イ 土曜補習の計画的実施と志望校別講習や個別添削指導の充実を図る。	(2) ア 自習室の利用者数が全校生徒の60%以上(H26は51%)。 イ 土曜講習年間15回以上実施。(H26は12回実施)	(2) ア 学習合宿は、台風により淡路島に行くことは中止したが、英語のネイティブ(9名)によるコミュニケーション講座を本校で実施した。定期考査前と考査中は食堂も自習室として開放している(H27 49%)。(○) イ 土曜補習は年3年11回、1・2年9回の実施に留まった。土曜日にSSHの発表会等の活動や学校行事・模擬試験を優先的に入れるため、補習の確保が非常に困難な状況になっている。(△)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">献する人間力あふれる人材育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成</p> <p>ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化</p> <p>イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導の徹底</p> <p>ウ 校内美化活動の充実</p> <p>エ 人権意識の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 新入生歓迎会や日々の活動を通して生徒会活動や部活動の魅力を生徒に伝え、さらに充実した生徒会および部活動にする。</p> <p>イ 全教員による登校時の指導を通じて、挨拶や交通マナー、遅刻の防止の徹底を図る。</p> <p>ウ 校内清掃及びゴミの減量・分別の徹底を図る。</p> <p>エ 人権 HR をはじめ、教育活動全体において、生徒の人権意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 畷高アンケートにおいて、「生徒会活動への積極的な活動」を70% (H26は56%)にする。部活動への加入率90%を維持する。</p> <p>イ 遅刻回数を前年度より10%減らす。(H26 1,045名)</p> <p>ウ 畷高アンケートにおいて、環境問題への意識に対する肯定的評価を80%以上にする。(H26 59%)</p> <p>エ 畷高アンケートにおいて、「人権・生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多いか」に対する肯定的回答を80%以上にする。(H26 69%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア (H27 1・2年平均 42%)生徒会活動への積極的な参加を肯定的に見ている割合が低下している。特に1年生が極端に低い(34%)。部活動加入率は94%とさらに前年を上回った。本年度近畿大会出場は4部(卓球、山岳、バドミントン男女)、軽音楽部がスニーカーエイジコンクール優秀賞でグランプリ大会に初出場し、ベストサポーター賞を獲得(○)</p> <p>イ 遅刻者数は、721名で31%の大幅減を達成した。(H26 1,045名)(◎)</p> <p>ウ 清掃活動への意識は、H27 87%(H26 86%)と高いが、ゴミ減量やエコなど環境への意識は、H27 52%(H26 59%)と低下した。(△)</p> <p>エ 人権に対する意識の肯定的評価はH27 67%とほぼ横ばい。来年度の人権教育計画について、内容の精査を行う必要がある。(○)</p>
	<p>(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成</p> <p>ア 発表の機会の充実とレベルアップ</p>	<p>(2)</p> <p>ア 「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、「英語暗誦大会(如月杯)」をはじめ校内での発表の機会を充実させるとともに、校外での発表会への参加での入賞をめざす。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 校外でのコンテスト等への入賞10件以上(H26は8件)。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 日本数学コンクールに4名入賞。大阪府青少年読書感想文で優秀賞。四條畷市ライオンズクラブ主催高校生英語弁論大会に3名入賞、日本数学オリンピック予選突破・本選出場1名、全日本学生音楽コンクールピアノ部門2位の計10本(◎)</p>
	<p>(3) 国際交流活動の充実</p> <p>ア 台湾、オーストラリア、ドイツ及びベトナムとの交流の充実</p> <p>イ SETを導入による実用英語力の向上</p>	<p>(3)</p> <p>ア 国際交流キャンプ、台湾への海外修学旅行、オーストラリア研修、ドイツエネルギー研修、ベトナムボランティアツアーの実施及びテレビ会議システムによる交流を行う。</p> <p>イ TOEFL仕様の授業を文理学科1年生全員対象に週2単位実施するとともに、TOEFL-iBT講座を希望者40名対象に実施する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 畷高アンケートにおける生徒の国際交流への満足度が90%以上(H26 87%)。</p> <p>イ TOEFLiBTチャレンジ講座40名の受講と60点以上10名をめざす。</p>	<p>(3)</p> <p>ア ドイツエネルギー研修を初めて実施15名の生徒が参加。関西外国語大学における国際交流キャンプも成功裏に終わることが出来た。台湾修学旅行も松山高等中学との交流を行った。ベトナムボランティアツアー6名参加、参加生徒は卒業式や学校説明会で研修報告を行った。オーストラリア研修参加者20名については今後事前研修を進めていく。国際交流事業は充実しているが満足度はほぼ横ばいとなっている(H27 84%)。(○)</p>
	<p>(4) 地域貢献活動の充実</p> <p>ア ドイツのメアブッシュ市及び四條畷市内の小中学校との交流推進</p> <p>イ SSH事業及び部活動や学校行事等を通じた地域交流</p>	<p>(4)</p> <p>ア メアブッシュ市とのネット交流に四條畷市内の小中学校も参加し、交流を広げる。</p> <p>イ 生徒、教員の地域行事への参加、地域の方の本校の行事への参加を積極的に推進する。</p>	<p>(4)</p> <p>ア メアブッシュ市ギムナジウムとのテレビ会議による交流を月1回以上実施。</p> <p>イ 四條畷市内中学校からの入学者数を定員の8%以上をめざす。(H27 5.8% H26 6.7%)</p>	<p>イ 業者によるTOEFLiBTチャレンジ講座30名及びSETによる特別講座30名受講。チャレンジテスト80名中60点以上1名、40点～59点10名。(△)</p> <p>(4)</p> <p>ア テレビ会議を通じて8月の研修に向けての準備や終了後もメールでの交流を続けている。(○)</p> <p>イ・ドイツエネルギー研修については、9月に四條畷市長へ報告訪問、またJICAの研修団一行を迎えて、学校施設(風力・太陽光発電装置等)案内、研修参加生徒との有意義な交流を行うことができた。11月24日には四條畷市民講座で報告会を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に開業したAEONモール四條畷に美術部と写真部の作品が展示された。 ・12月に2回、SSHの課題研究として地元小学校へ出前授業を実施し、好評を得た。(◎)

学校組織運営の効率化	<p>(1) 教職員の学校経営への参画意識の向上 ア ICT 活用による業務の効率化 イ 新たなPTによる機能的な業務運営 ウ 職員会議等の活性化</p> <p>(2)組織的な広報活動 ア アドミッションポリシーの共有と発信 イ 保護者・生徒等への情報発信の充実</p> <p>(3)一人一人の進路希望に応じた進路実現のための進路指導體制の充実 ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」に向けた進路指導の徹底 イ 社会人から学ぶ機会の充実 ウ 教員対象のスキルアップ研修による全教員の進路指導力の向上</p> <p>(4)安全で安心な学校生活への環境整備 ア 保護者や関係機関との連携強化とともに、校内の生徒相談体制の充実 イ 災害や事故等発生時の連絡体制の徹底と円滑な対応 ウ 視覚障がいのある生徒への対応</p>	<p>(1) ア、イ 新設した ICT 推進 PT、SSH 推進 PT、国際交流 PT、広報 PT が既存の分掌・学年と連携を取り、学校全体の校務の効率化を図る。 ウ 職員会議や各種会議の活性化を図り、学校の現状と課題の共有化を図るとともに、教職員の学校運営への参画意識を高める。</p> <p>(2) ア 校内や校外における学校説明会等や学校 HP を通じて、アドミッションポリシーをはじめ本校の取組みを積極的に発信する。 イ 学校 HP・メルマガなどによる情報発信の充実</p> <p>(3) ア 生徒及び保護者に対する進路説明会の充実と大学キャンパスツアーを実施する。 イ 卒業生や社会人を講師として招へる飯盛セミナーや大学の研究室訪問を実施する。 ウ スキルアップ研修を年 3 回実施し、最新の進路情報の共有と進路指導のノウハウを学ぶ。</p> <p>(4) ア スクールカウンセラーによる生徒、保護者、教員の相談を月 1 回以上実施するとともに、ストレスマネジメントに関する講演会を開催する。 イ 防災訓練の定期実施とともに、授業において防災に関する教育を導入する。 ウ 通学路及び校内の安全確保のため、点字ブロックや点字案内板などの設置及び障害物の除去などを行う。</p>	<p>(1) ア、イ 畷高アンケートにおいて、「教職員の意見反映」に対する肯定的評価が 60%以上 (H26 41%)。 ウ 畷高アンケートにおいて、「職員会議や各種会議が有効に機能している」に対する肯定的評価が 60%以上 (H26 35%)</p> <p>(2) ア 学校説明会への参加者数 2,000 名以上を維持する。(H26 2,482 名) イ 学校HPの更新回数 150 回以上。(H26 116 回)</p> <p>(3) ア 京阪神 3 大学の現役合格 50 名以上 (H27 41 名)、既卒者を含めて 80 名以上 (H27 74 名)。 イ 畷高アンケートによる「飯盛セミナー及び研究室訪問の満足度」が 85%以上 (H26 82%) ウ スキルアップ研修への参加率 90%以上。(H26 87%)</p> <p>(4) ア 畷高アンケートにおける教育相談に関する保護者の肯定的回答が 80%以上 (H26 75%)。 畷高アンケートにおける生徒のストレス対処法に対する肯定的評価が 80%以上 (H26 63%) イ、ウ 畷高アンケートにおいて、保護者の「事故防止に配慮し、学校施設・設備の点検を行っている」に対する肯定的評価が 90%以上。(H26 69%)</p>	<p>(1) ア、イ 新たな四つの PT がそれぞれの業務を円滑に運営している。また主担当が運営委員会の委員であることから、他の分掌との連携も円滑に行われている。「教職員の意見反映」についての肯定的評価は低い (H27 34%)。内規の見直し(職会規定の改定等)の影響と考えられる。(△) ウ 基本的に毎週月曜日は運営委員会を設定し、学校の現状と課題の共有化を図っている。また、運営委員会が職員会議の議事整理に留まらず、提案も行う会議となるように進めていきたい。(H27 42%) (△)</p> <p>(2) ア 説明会参加者数は増加傾向 (H27 2,814 名)で、申し込み受付開始当日でほぼ定員になる状況。(◎) イ 学校HPの更新回数は 3 月 24 日現在 109 回 (昨年同期 116 回) とほぼ同じ。(○)</p> <p>(3) ア 京阪神 3 大学現役合格 49 名、既卒含めて 82 名 (○) イ 11 月の飯盛セミナーでは、外部講師 6 名に來校いただき、本校教諭 1 名、生徒 2 名とともに講師を務めた。生徒の肯定的な評価は低い (H27 71%)。内容や講師の選定に工夫する必要がある。(○) ウ 全 3 回の参加率平均はやや減少。(H27 81%)。他の業務や研修も多いことから、内容と回数の見直しが必要である。(○)</p> <p>(4) ア 昨年と同程度の肯定的回答を得た (H27 75%)。二人のスクールカウンセラーの方に各々月 1 回生徒、保護者、教員とのカウンセリングを行っていただいている。相談の件数 72 件。教育相談委員会 8 回開催。 ストレスマネジメント講演会を 1 年生全員対象に 11 月 5 日に実施した。ストレス対処法に対する意識は、事前アンケートでは、肯定的評価が 20%であったが、事後アンケートでは 58%と一定の効果があつたが、1 年生は 52%と依然として低く、今後も課題として取り組む必要性を感じる。(○) イ 防災訓練が 2 回雨で中止となったが、再計画して 11 月 20 日に実施。保護者の事故防止に対する肯定的評価は 72%とやや向上した。(○) ウ 就学支援委員会を起ち上げ、定期的に会議を行い情報の共有と支援の在り方の検討を行っている。日常的には各委員が役割に応じた支援を進めている。(○)</p>
------------	---	--	---	---